

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 5年 3月 20日

公表:令和 5年 3月 29日

事業所名 子ども支援室 えがお

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		1階、2階の訓練室を活動によって分けて使う	
	2	職員の配置数は適切である	5			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	階段等は安全に子どものみでは使用していない	階段は今後も職員と一緒に使用していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		非常勤の声も聞くようにしている	非常勤スタッフの参加しやすい日程を考えていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		議題にあげている	改善項目等、保護者の方に報告をしていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2		第三者の選出を考えているが進んでいない	第三者の選出をする。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		研修の情報をつたえている	研修参加報告をしていく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			児発管が主になっているので、他の職員も参加していけるようにする
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2			常勤職員のみではなく、非常勤の参加もしていけるようにする
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			活動の内容、課題は日々変えている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5			利用時の特性に合わせた支援を今後も行っていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		学年の差を考え計画している	学年の差がある面で集団での活動プログラム内容が難しい
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			短時間でも行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	1		時間を取れるように工夫していく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3			計画の期間ごとになっているので、もう少し短スパンで見えていく
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3			ガイドラインについて周知していく	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			児発管が参加後は、体制を考えて、他の職員の同席も考えていく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4		送迎時に様子をうかがうようにしている。また、保護者にも伝えることもある	学校によって対応は違うが一方通行になっても事業所での姿を伝え連携をとっていく。個人情報に気を付けながら連携を取っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3			医療的ケア児は在籍していないが、それぞれの医療機関リハに通っているお子様はいるので、との情報交換は行っていく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4			在籍している利用児が高学年になっているので、幼児期の内容での連携は行ってはいない。他の事業所との併用利用児は連絡を取る
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4			社会福祉協議会の進路の話などの集まりに参加していただく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3			療育支援事業自体が感染症の流行等で開催がなかったり参加できなかった。積極的に職員の参加を心がける
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1			感染症の流行で交流はしていないが、地域の子もたちとの関わりは社会状況を考えで行っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2			管理者が毎回参加、今後も参加をしていく、人数の制限がなければ他の職員も参加していくとよい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			今後も共有していけるようにコミュニケーションをとっていく。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3			開催する日程の調整が必要となる。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			説明している。運営規程は提示もしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			今後も共有していけるようにコミュニケーションをとっていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3		保護者のニーズは薄い。外国人で集まった時は保護者間で話題も出て、充実再開希望があるので、答えて行きたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			苦情は出ていないが、けが等は伝えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	2		フェイスブック以外で、お便りとして出す方向で行く
	35	個人情報に十分注意している	5			ネット等での写真等に特に気を付ける
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1		感染症の流行もあり自粛してきたが、考えていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		かかりを決め行っていく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		研修会、事業所内での勉強会に参加
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5		別紙にて伝えている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3		現在はいない
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		ヒヤリハット記入等と声を出してきたことはよかったですので、継続していく。